



1974-1980

うさぎ跳びの思い出



それなりに勝利の味も 経験した

「みっともない試合しやがって。これからうさぎ跳びでグラウンド5往復や！ ええな！」と、佃先生の声がこだました。グラウンド5往復と言えは約1Kmである。最初の片道で十分すぎる位足にこたえる。あとの4往復半は、はうようにして何とか終えた。

中1の、わが37期の初めての試合の時のことである。我々は0-5で負けたのだった。チャンスも無く、ただ相手のボールを追い回しているうちに終わってしまったという感じだった。相

手がどこだったか思い出せないがえらくうまい奴らもいるもんだと、感心してしまっていた。

中1の年はその後何度か試合をしたが、その度に大量点を取られ、取られた点の数だけうさぎ跳びでグラウンドを往復させられた。

その頃になるとさすがに相手が強いのではなく、自分達が弱いんだと認めざるを得ず、うさぎ跳びがなおさらこたえた。ただ、中2になると1試合に何度かチャンスができるようになり、今まで勝てる気がしなかったのがひょっとしたら勝てるかもという感じに変わってきた。

そして、神戸市の新人戦だったと記

憶しているが、1回戦で有馬中学と戦い、PK戦の末、記念すべき初勝利を飾ることができた。もう来ないかも知れないと思っていた日が突然やって来たという感じで、喜びもひとしお、忘れられない思い出である。

その後わが37期は大会で特筆すべき好成績を収めたことはなかったが、決して負け続けた訳でもなく、それなりに勝利の味も経験することができた。

私は今、会社のチームで月1回程度サッカーを続けているが、未だに大負けすると、あの時の佃先生の顔やうさぎ跳びのことが頭に浮かぶ。本当に忘れられない思い出である。

[木下 克彦]



最後の大会をめざして

最低最悪の学年と言われ続けてきた37期も、あとは1月の大会を残すのみの所までできてしまった。結局の所、その汚名を返上するには至らなかったが、試合成績を見ただけであればわかるように、確実に一歩ずつ前進していると自負している。とりわけ、選手権大会優勝候補の筆頭とまで言われていた県立尼崎工業高校との試合は印象に残っている。当初、5、6点は確実に入れられるのではないかと予想されていたのが、いざ試合が始まってみると、なかなか点を取られないではないか。そのうち10分が過ぎ、20分が過ぎ、30分が過ぎていった。しかし、30分が過ぎた頃から、気力が続かなくなり、ついにたてつけに点を取られてしまった。後半には必ず取り返すぞ！と攻撃を加え、相手の体力切れもあって、度々シュートを打ったが、ついに決定打がなく、惜敗を帰したのである。(この大会、尼崎工業高校は準優勝であった。)しかし、この試合である程

度の自信をつけ、得点力さえつけば、上位にくい込むのも不可能ではないと思っている。そして、1月の最後の大会での上位入賞をめざしている。一方、期待されていた中学も、体格の差などのため、今一つふるわなかった。最後に、キャプテンとして後輩に一言。試合に勝つには、キャプテンは何事もなし得ないということ覚えておいてほしい。

[高校]

●神戸市大会53年1月

- 1回戦 不戦勝
- 2回戦 六甲0-0 赤塚山
(PK3-2)
- 3回戦 六甲6-1 北須磨
- 準決勝 六甲1-1 長田
(PK3-4)

●県大会2月

- 1回戦 六甲1-1 県尼工
(PK4-3)
- 2回戦 六甲0-1 西宮東

●高校総体県予選5月

- 1回戦 六甲0-3 福崎

●新人戦神戸市大会9月

- 1回戦 六甲4-1 村野
- 2回戦 六甲0-8 須磨

●選手権大会県予選11月

- 1回戦 六甲5-0 育英
- 2回戦 六甲5-1 鈴蘭台
- 3回戦 六甲0-2 県尼工

[中学]

●新人戦神戸市大会2月

- 1回戦 六甲6-0 湊川
- 2回戦 六甲4-1 有馬
- 3回戦 六甲1-2 東神戸

●春の大会

- 1回戦 不戦勝
- 2回戦 六甲1-3 神大附属住吉

●夏の大会

- 1回戦 六甲1-3 福田

●秋の大会

- 1回戦 六甲1-1 鷹匠
(PK3-4)

校誌(六甲)より

37期、高2キャプテン辻村